



9/24問題作成会議

- ・デジプロの理念最終目標の再確認
- ・エンジニアチームからの要求・アドバイスの共有
- ・今後の問題作成の流れの決定・確認

全くプログラミングを知らない小学生に、
まずはプログラミングに親しんでもらい
プログラミングの入り口を体験してもらう。

- × 文字で理論を説明するだけ。
- × アプリを作れるようになる。

- ・アメリカでは学校など教育用に使われている
- ・インデントを使うのでコードがみやすい
- ・人工知能などでも使われていて今ホット

小学生向け
プログラミング本



Python本



その場で出来る

長所
小学生でも読みやすい

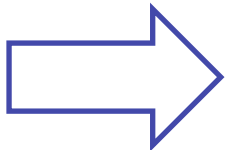
長所
Pythonをしっかり学べる

長所
プログラミングを身近に
感じられる

短所
その場で実行できない
(=開発環境を整えるのが
大変)

短所
小学生には難しい

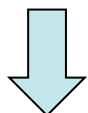
短所
解説が無い



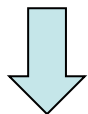
デジプロはそれぞれの長所を活かし短所を補う事が出来る！！

- ・マークダウン形式にする
- ・インタラクティブにする

9/25@pineが紹介してくれた団体を訪問し可能であればフィードバックをもらう。



参考本2冊をベースにマークダウン形式で問題を作成。

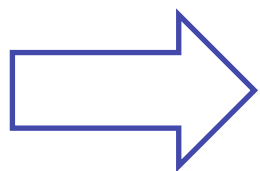


細かい修正を繰り返す。

(毎週金曜日のデジプロ会議でエンジニアチームと打ち合わせ。)

絶対に守るのは

- ・マークダウンにする
 - ・インタラクティブにする
- の2点のみ



後は問題作成班の自由！！

- 本は参考にするのではなくパクるぐらいの勢いで。
- Pythonの勉強をしっかりとる。
- 用語集はいらない
- 小学生向けの教科書を参考に。
(文面は統一したほうがいいのか？)

- 文面が單元ごとに違う
- Pythonの勉強不足
- 單元ごとのつながりが薄い
(全体像が見えにくい)

- 文面をどうするか
- シラバスをどうするか
- 漢字をどうするか
- キャラクターを使うか

- ・練習問題は出力結果で判定されるので、出力が出るプログラムにする。

また、改行なども同じになるように指定する。

- ・文字色・デザインなどは問題作成反メインの仕事ではないので問題の内容に力を注ぐ。

- ・10月にはある程度完成させたい

- ・文面はあまり気にしすぎず、出来上がった文章を読んでおかしかったら校正する。
「いちばんはじめてのプログラミング」を基にする。

- ・漢字はルビをふり難しい漢字はひらがなにする
ルビはプログラムで自動で振り細かい修正は手動で。
- ・インタラクティブになるような問題構成にする。

- ・各章の冒頭にこの章で学べる事を3点ほど羅列する。
それをまとめて最初にシラバスとする。

- ・冒頭の書式はあとで指定します。

例) 見出し(プログラミングって何だろう?)

この章では次のような事が学べます。

ここでは、—————についてお話しします。

- ・10・8(土)に初回提出

:arrow_right: マークダウン(.md)ファイルで解説を一通り終えた状態で、練習問題を5問作成。